

第1回横浜市屋外広告物審議会デザイン審査部会議事録	
議 題	審議事項 議事1 関内駅周辺のデザインマンホールのデザイン調整について
日 時	平成27年2月10日(火) 午後1時30分から2時30分まで
開催場所	松村ビル別館503会議室
出席者 (敬称略)	委 員：岩村和夫、菊竹雪、松野勲 事務局：小池政則(都市整備局地域まちづくり部長)、飯島悦郎(都市整備局景観調整課長)、 岩松一郎(都市整備局景観調整課景観調整係長) 説明者：関係事業者・株式会社横浜DeNAバイスタース デザイナー
欠席者 (敬称略)	なし
開催形態	公開(傍聴者なし)
決定事項	議事1：関係事業者提案のA・B案に絞り、最終的なデザイン調整は松野委員に一任することとした。
議 事	<p>開 会</p> <p>(事務局) 第1回横浜市屋外広告物審議会デザイン審査部会を始めたいと思います。本日は、先日の第54回横浜市屋外広告物審議会で開催することになりましたデザイン審査部会の第1回ということになります。先般議論いただいた関内周辺のデザインマンホールにつきまして、審議の方、よろしくお願いをいたします。それでは岩村部会長に進行をお願いします。</p> <p>議 事</p> <p>議案1 関内駅周辺のデザインマンホールのデザイン調整について</p> <p>(岩村部会長) お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。きょうは審議事項が一つだけですので、それほど時間はかからないと思いますが、活発なご議論をお願いしたいと思います。まず資料の説明からお願いをいたします。</p> <p>資料確認</p> <p>(岩村部会長) ありがとうございます。第1回ですから、前回の議事録はありませんよね。</p> <p>(事務局) はい。それで、前回どんな議論があったかについて、議案の1のところに書かせていただいております。</p> <p>(岩村部会長) どうでしょうか。ご説明があった後のほうがいいのでしょうか。前のほうがいいのでしょうか。</p> <p>(事務局) 事務局としては、以前こういう議論がありましてというところまで進めさせていただいて、バイスタースさんのほうに今回のデザインについてご説明いただければというふうに思っております。</p> <p>(岩村部会長) わかりました。それではこの資料について、事務局からご説明をお願いします。</p> <p>(事務局) それでは議案1、関内周辺のデザインマンホールのデザイン調整についてということで、前回の審議会であった主な意見として3つに分けてご紹介します。</p> <p>1つはマンホールにそのものについてです。マンホールは、背景の存在(インフラ)であり、デザインを含めた存在の主張は控え目であるべき。それからもう一つ、マンホールの铸铁部分に色を塗ることは、周辺との調和、ほかへの波及という意味では好ましくないといった意見が出ております。</p> <p>それから、デザインについてですが、マンホールに情報を盛り込み過ぎてデザインがわかりにくく</p>

なっているという点が挙げられます。また、このデザインで横浜をイメージすることは難しい。市民は数字の意味までは理解出来ない。そのほか、例えば中華街までの距離を示すなど、周辺の横浜を代表する場所までの方向などを示すことでもよいのではないか。マンホールに案内サインの機能まで負わせてしまうことは、町なかにサインをあふれさせることにもつながることや、横浜市のサイン計画との整合性などから好ましくないといった意見がございました。

設置場所についてですが、横浜スタジアムに近い場所は球団色を強く出し、横浜スタジアムから離れれば横浜のイメージを強くするなど工夫があってもよい。日本大通りは横浜の歴史性など景観上とても大切な場所であり、ほかの場所とはわけて考えるべきといった意見が主には出ておりました。

審査する上で本日考慮いただきたい点ですが、審議会並びに審査部会では、最終的に条例上の特例許可をするに当たり良好な景観の形成に寄与するか、または、公益上そのほかの理由があり景観を阻害しないと認められるかについて、本日はご意見をいただきたいと考えております。それとも一つは、関内地区というのは、景観計画上も景観推進地区として位置づけており、特に関内駅南口・市庁舎前、それから日本大通りの道路、それから横浜公園は都市公園ですが、ここというのは景観重要公共施設として指定されておりますので、そのほかの横浜市の周辺地区と比べると景観への配慮が必要だということがございます。ここまでが前回の話になります。

(岩村部会長)

一応ここで切りましょうか。

(事務局)

はい。

(岩村部会長)

ここまでで、委員の先生方から何かご意見ございますでしょうか。前回出席されていたと思えますが。

(菊竹委員)

事務局にご説明いただきたいのですが、この景観推進地区として位置づけられている場所、特に関内駅南口・市庁舎前というのはどこに当たるか、ちょっと教えていただいてもいいでしょうか。

(事務局)

J R 関内駅をおりて市庁舎との間の道路の部分です。関内駅南口・市庁舎前ということになります。平成 20 年に景観推進地区として位置づけられました。

(岩村部会長)

そのほかになにかご質問ございますでしょうか。特になければ、まずベ이스ターズさんから説明いただいて、その後また事務局のほうから裏面の説明をしていただきたいと思えます。

(説明者) 横浜 D e N A ベ이스ターズ

前回お話をいただいた内容から幾つかブラッシュアップをした案ということで、A から D まで今回ご提出をしております。そのデザインの詳細については、デザインをしていただいたデザイナーさんに細かい部分を含めてご説明をさせていただいて、また皆さんのご意見をいただいた上で、どういう形で最終的なデザインに落とし込んでいくかというところを今回決めていただければ、実施に向けて前へ一歩進むかなと思っております。

(説明者) デザイナー

当事業といいますかマンホールのプロジェクトにおきまして、前回の会議のときにもいろいろご意見をいただきましたが、4 案用意してきているのですが、まず全体として、この場所が 100 年以上続いている港町としての風格、そういう景観に合うようなマンホールにならねばならぬであろうということが 1 つ挙げられるということと、同時にベ이스ターズの街でもあるので、ベ이스ターズとしては野球的なといいますかベイスターズ的なにぎわいが外に広がっていくことを望んでいるという、そういう 2 つのある種違うコンセプトのどのあたりに、その真ん中といいますかそれらを吸収するようないいポイントがあるかというところが、やはりデザインの争点になるかと思っております。

1 案目は A のマンホールをごらんいただきたいのですが、前回審査員の皆さんにご議論いただいたような、形をなるべくクラシック感をとった上で実現させようというアイデアです。I ☆ YOKOHAMA で使われている星がこの真ん中の星なのですが、その星をそのままかたどって、それとともに横浜スタジアムはこっただよとか関内駅はこっただよとか、そういった街のサイン、これはもちろん場所によって内容は変わるわけなのですが、そういったものが配されると。これで言うと、ベイスターズ的なにぎわいの部分はこの星であるとか「I ☆ YOKOHAMA」、ベイスターズのロゴで担保しているけれども、周囲のところは横浜的なちょっとクラシックなところを押さえてデザインをしているというアイデア

になります。

そして2案目、B案のほうにいきたいと思いますが、これもまた審査員の皆さんからご意見があったとおり、ベ이스ターズのロゴそのものをぼんと出せばいいのではないかという話がありました。若干、情報過剰な感じもするので、やはり星だけのほうが個人的には気に入っているのですが、そういうふうにベ이스ターズのロゴがぼんとあって、その上で周囲に南北がわかるような、先ほどのどちらに何があるよというサインとは違いますが、何となく方位磁針的に。特にこれが中華街あたりに展開すると、ひょっとしたら中華街はかなり迷いやすいので、このマンホールを見ると迷わないということもでき得るのかな、などというふうに思っていた案です。

C案です。今、ベ이스ターズの大入りのコインなども弊社でデザインしてしまっていて、そのときに、横浜的クラシック感とベ이스ターズ的なデザインとの真ん中にあるようなデザインをちょうどコインに施していたものですから、そういうちょっとクラシックな感覚のベ이스ターズ訴求ができるようなデザインにしているのがC案です。

D案は前回と変わりはないのですが、横浜が誇りに思う幾つかの横浜のアイコンそれぞれに背番号をつけていって、横浜と言えばこれだよねというものを一つ一つ街に埋め込んでいくというのがD案です。

以上、4案になります。どうぞご審議のほど、よろしくお願いします。

(岩村部会長)

それではまず、委員の方々にご質問のほうからお願いしましょうか。ご意見はその後にさせていただいて、まずご質問があればお願いをいたします。

(菊竹委員)

前提条件なのですが、これはベ이스ターズ様から出ているこの設置場所すべてについて、この同じデザインで許可するということが前提条件なのでしょうか。

(岩村部会長)

それは、事務局のほうに。

(事務局)

今回はあくまでも、2015年3月までのJR関内駅周辺の最大で22カ所という場所についてのみの審議というふうに考えていただければと思っております。ほかの場所につき場合には、その場所の特性というものがございまして、またそれぞれのものごで審議をかけていきます。今回はあくまでも2015年3月までの設置場所についてご審議をいただきたいと事務局としては考えております。

(菊竹委員)

委員長、もう一つ追加で質問です。この2015年3月までの設置場所をお伺いしましたが、景観推進地区とそうでない場所と両方含まれていると思うのですけれども、それでも一緒に考えるということなんでしょうか。

(事務局)

今回、下水の担当部署からすると、デザインを変えてしまうとそれぞれでコストが上がってしまうので、基本的にデザインは統一してほしいというふうな要望も受けておりますので、この地区に関してはデザインについては同じでと考えております。

(菊竹委員)

ありがとうございます。

(岩村部会長)

そのほかにかがでしょうか。

(松野委員)

このB案は東西南北が入っていますが、これは向きによっていろいろ変えるわけですか。

(説明者) デザイナー

そういうことになるかと思えます。また、そういったことが実際運営上可能なかどうかということも、A案・B案に関しては話し合わなければいけないところなのかなと。ある意味では、マンホールというのはどの向きではめてもいいようになっているから丸いわけで、それを下水道の人がちゃんと向きを直していただくということが前提になる案ではあるということです。

(岩村部会長)

それは私も伺いたかったのですが、その向きをどうやって担保するのですか。

(事務局)

新横浜でマリノスのマンホールは、競技場の向きを矢印で示したものをやっていて、それはきちんと

とその都度その場所に合わせた設置をしています。

(岩村部会長)

何かマークでもつけるのですか。本当の、正確な方向性というのはわからないですよね。特に、横浜スタジアムはこっちですとか、関内はこっちですと。あるいは東西南北もそうですが。作業員の方はわからないですよね。何かマークがあれば別ですが。

(事務局)

それは指示をきちんとしてつけるということになると思います。

(岩村部会長)

そのたびごとに指示をする。どなたが指示するのですか。

(事務局)

下水道管理者である環境創造局が設置します。

(岩村部会長)

私からの質問は色彩、色なのですが、今回周辺が鋳鉄の色になっていて、真ん中が銀色の輪があって、その中に青と白ですかね。

(説明者) デザイナー

そうです。

(岩村部会長)

これは、どういう色を使われるのですか。

(説明者) デザイナー

銀色の輪に関しては、もうこれは仕様で、この中にプリントをする場合にもう決まってしまうということがあって、我々もかなり悩ましいところだとは思ってはいるところではあります。中の色に関しては、ベイスターズの訴求カラーが基本的にブルーなのです。だけれども、以前お見せしているようなベイスターズのブルーというのは、非常にビビッドなスポーツのブルーなので、でもそれは街には似つかわしくないということもあるので、もう少し紺に近いとかもう少し深いブルーと思っています。横浜の景観のブルーというのは、何となく横浜はブルーのニュアンスがありますよね。いろいろなロゴのデザインにしてもそうだし、海の町でもあるからそういう印象があると思うのですが、そういう濃い目の紺色、群青的なブルーといいますかそういった色になるのかなと思っております。カラーチップなども用意していればよかったですのですが、済みません。

(岩村部会長)

中の白は、これはどんな白になるんですか。

(説明者) デザイナー

白というよりは、少しくリームぐらいのことでいいのかなというふうに思っています。というのは、これも景観の話でもあるし、汚れの問題もあるのですが、何となく真っ白と青というと、結構工業色が強くなっていくとか大量生産色が強くなっていくのですが、そういったニュアンスはやはり横浜の街に似つかわしくないのも廃したいということはあるので、少しくリームに若干寄せたホワイト的なところに落ちつけられればなと思っておりました。

(岩村部会長)

極端な話なのですが、色を全部やめて鋳鉄にするという考えはないですか。

(説明者) デザイナー

カラーチップがありました、これがカラーチップです。

それは検討をしたのですが、非常にコストが高いということがありまして。あとA案であるとかD案であるとか、そのマンホールごとに違うということは実現できないであろうということはありません。

(岩村部会長)

大分濃いですね。

(説明者) デザイナー

実は一番最初に横浜市さんないしベイスターズさんと打ち合わせたときは、すべて鋳鉄でやるということでデザインを起こしていました。それが現実にはコスト的な面で難しいですねということの中で、現在に落ちついているという経緯があります。

(岩村部会長)

事務局にお伺いしたいのですが、これは失礼な言い方になりますが、ベイスターズが未来永久永劫存続するとは限らないですよね。特に野球の場合は、しょっちゅう経営者がかわったりしますね。し

よっちゅうというのはないですけども。例えば会社が変わったとき、そうした場合には残るのですか。

(事務局)

そこは下水道の部署とも話し合っています。バイスターズさんがどうのという話ではなくて、マンホール自体は基本的にかえられるというところがメリットとして1つあります。バイスターズが何らかの形で変わった場合には、このふたというものがバイスターズさんのものではないので、下水道の部署で対応すると聞いております。

(岩村部会長)

例えば、元のものをそのまま戻すということも可能なわけですか。

(事務局)

デザインマンホール自体は、実は外枠の部分からデザインマンホール用にしつらえができておりますので、これが鋳鉄に戻るといことになると、全部鋳鉄のものから入れかえになってしまいます。

(岩村部会長)

わかりました。

(事務局)

中にはめ込むプレートだけとりかえて、当面無地にする方法があります。

(岩村部会長)

その場合の費用負担はどうするのですか。

(事務局)

そこまでは確認しておりません。

(岩村部会長)

これから相当数がふえますよね。それを全部かえなければいけないですよ。仮の話ですが。それはまだ検討されていないですか。

(事務局)

確認していません。

(岩村部会長)

それで、この色が鋳鉄ではないといったときに、汚れた場合のメンテナンスはどうされるのですか。例えばチューインガムが張りつけられたとか、泥がついたとか、いずれにしても白い部分はどうせ汚れますよね。

(説明者) 横浜DENAバイスターズ

仕様のには、カラーのものはめた上に、透明なものを上から覆います。なので、そのカラーのものが直で汚れるというよりは、その上のプレートが汚れてくるというものになるので、そのもの自体は雨だとか、もしものすごく強い汚れであればブラシをかけたとかふき掃除をするだけですぐ落ちるといのは、メーカーからは伺っています。なので、色自体に汚れがついたりとかものがくっついたりということではないという状況です。

(岩村部会長)

では透明の膜の耐久性が相当あるという前提ですね。それは実績はありますか。

(説明者) 横浜DENAバイスターズ

それは過去の、例えばマリノスさんも同じような形式でやっていて、ほかの地域も同じような形式でやっていると同っております。

(菊竹委員)

しかし、マリノスは設置から相当時間がたちまして、相当汚い箇所が出てきまして、実は審議会でもそれはちょっと問題になった状況があります。それだけはきちんと。どれくらい経年変化するとどういうふうになるかということは、私たちはきちんと押さえておかなければいけない大切なポイントだと思います。ごらんになりましたか。

(岩村部会長)

確かに、一番気になっているのはその点なのです。ごらんになりました？

(説明者) 横浜DENAバイスターズ

はい。すべてを全部、一から見たわけではないので、もしかしたらそこで見逃しがあるかもしれないですが、私が見たところで主観的なところもあるかもしれないですけども、汚れがものすごく目立つのでこれはすぐとりかえなければ、いうものではないという理解ではいます。ただ、もちろん場所であったり、ものによってそういうことがあるというのは、そうかなと。

(岩村部会長)

その点について、事務局はどういうふうにお考えですか。

(事務局)

マリノスのマンホールは確かに一部汚れがついたままになっているものがありましたが、全体的に見るとそんなに多いわけではないですね。

(岩村部会長)

その清掃、メンテナンスはどなたがおやりになるのですか。

(事務局)

基本的には、道路管理者である土木事務所が一義的な責任を負いまして、彼らはもちろん道路管理を担っており、加えて下水道管理も担っていますので、一義的には彼らがきれいにするということになります。

(岩村部会長)

それは向こう側さんもそういうふう理解されているのですか。

(事務局)

メンテナンスの議論をしたときに、理屈上は汚れないけれども、どうしても汚れた場合には彼らがきれいにするという話になっております。

(岩村部会長)

マリノスはあれは何年目になるのですか。

(事務局)

3～4年になると思います。

(岩村部会長)

やはり3～4年で汚れますよね。そのメンテナンスのシステムがはっきり確立されていればいいと思いますが。

それでは、そのほかに、このデザインに関してご意見をいただきたいのですが。

(松野委員)

今、見たところで、A案からいきますと、A案はちょっとさみしいなと思います。C案もちょっとさびしいですね。ベイだっという堂々感というか、どうだ感というカラー側からいくと、Bが一番いいのではないかなと思います。ただこのときに、東西南北のこのあれが必要かどうか。何かちょっと複雑になってしまっているなと思います。

(岩村部会長)

では、松野さんとしてはどれが一番お勧めですか。

(松野委員)

シンボルマーク的にストレートに入ってくるのは、僕はBだと思います。

(岩村部会長)

B案で。では、菊竹先生はいかがですか。

(菊竹委員)

私もこのBがいいと思います。しかし、松野委員と同じように、方向が本当に必要なのか。それから、I ☆ YOKOHAMA との関係性がちょっとよくわからないということはあります。しかしこの中では、B案がいいのではないかと感じました。

(岩村部会長)

出して何か言う前に事務局から意見、見方が出ていましたよね。それをちょっと説明してください。

(事務局)

議案1の裏面になりますが、今回の図案に対しての事務局としての見解ということで、評価点と懸念点を書かせていただいております。

評価点は2つございまして、1つはマンホールの鋳鉄部分の色が一般的なマンホールと同じ色となったということと、それから、掲載する情報が絞られていますので、結果としてシンプルなデザインとなっているのではないかなというふうに考えております。

一方で、懸念点としては、横浜DeNAベイスターズさんが、街との一体感を醸成するために始めたまちづくりプロジェクトで掲げたキーワード、I ☆ YOKOHAMA の訴求が少し弱いかなというふうに思っております。それともう一点は、横浜DeNAベイスターズの球団のロゴがそのままマンホールへ掲出されてしまうことが、やはり単なる企業PRとして見られてしまうという懸念が残ってはおりま

す。以上です。

(岩村部会長)

なかなか難しい観点が書かれていますね。私は、素直に申し上げるとすれば、松野さん、それから菊竹委員と同じような意見なのですが、一番訴求力があるのは、星でばーんと出すということで1枚目だと思います。その割に、これはもちろん場所によって違うんでしょうし、何を指し示すかによって違うんでしょうが、周りの字の位置が。私個人としては、あそこが横浜スタジアムだ、あるいは関内駅はこちらだという方向のサインは必要ではないのではないかと思います。仮にそれを取り去ったときに、これはもっとはっきりしてしまうわけですが、そういうやり方もないわけではないなと思いました。

2枚目のものに関しては、ロゴマーク自体が非常に完成されたロゴマークですので、そういう意味でデザイン的には一番優れているのかもしれないと思いました。おっしゃるように、この東西南北は本当に必要かどうかというのは、わかってどうなるのというものもあるのですが。これはこの前の審議会で出たご意見を反映したということだと思いますが、僕個人としては情報が少し過剰になってしまうかなという懸念はあります。それと、さっき言った方向をそろえるということが、ふたを閉めるときに結構面倒だなというふうに思ったりもしました。何か突起があったりとか印があれば別かもしれませんが。いずれにしても、だれかがそばにいて指示をしないとわからないというようなことです。

それから3枚目ですが、これは僕個人としてはやはり「B」というのが一番出てくるのが何となく気になるのですが。ベイスターズの「B」なのですが、何でAじゃなくてBなんだというふうに思う人もいるかもしれません。それから「Thank you for coming」というのも、個人的にはどうかというふうに思ったりもします。4枚目は、この前申し上げたとおり意味がわからないということで、どちらかという1枚目か2枚目かというのが私の意見であります。どちらかと言えば2枚目かなという気もしますけれども。これは個人的な趣味の問題ですので論理的に説明できるわけではありませんが。それで、色の問題が担保されるのであればいいかなと思います。ただ、1枚目はどうしても白い部分が多いので、汚れる可能性は多いかなという気がします。といったところで、デザイナーの方に伺いたいのは、どれが一番お勧めですか。

(説明者) デザイナー

Aです。

(岩村部会長)

A。その理由は。

(説明者) デザイナー

先ほどの横浜市からの話にもありましたが、ベイスターズがいかに横浜を愛しているのかということと、ベイスターズの広報ということを考えなければならないところがあります。ロゴだけになってしまった場合、例えば菊竹委員・松野委員がご指摘のとおり、この周りのものがなくなってこの星だけになった場合には、本当にただのベイスターズの広報物になってしまう可能性があるといえますか、事実そうなると思うだろうと。そういった場合に、ベイスターズがこの I ☆ YOKOHAMA を横浜市とやっている、ベイスターズの横浜愛を街にしみ出させていくというところの理念が失われてしまうであろうと思っています。なので、その折衷の中で、確かにA案のこの星に関しては我々もちょっとビビッド過ぎるということで、実はもう少しクラシックな、もう少しトーンが低い星もご提案していました。でも I ☆ YOKOHAMA の星がこの星だからということで、この星になっているという経緯がありまして、B案のところに見られるようなちょっとコントラストの低い星にこれをかえた上で、もしA案を押しすることができるのであれば、横浜市的に望んでいる形とベイスターズ的に望んでいる形と、それが街にあらわれたときの状況がそろうのかなというふうに思っております。という理由で、僕としてはA案を押ししたいところだなと思ってはおります。

(岩村部会長)

ベイスターズさんはいかがですか。

(説明者) 横浜D○NAベイスターズ

私たちとしては、まず見たところでベイスターズという認識をされたいとは思っているので、B案という形になると会社としてはうれしいかなと個人的には思っていますが、ただ、やはりそれは一方では、皆さんがベイスターズのことを興味・関心があるわけではないという部分もあったりだとか、街との調和というところもあるので、そういう意味で言うとA案という形で皆さんの合意がとれると、1つの形としてはうれしいかなとは思っています。

(岩村部会長)

その場合に、方向を示す矢印であるとか記述、それもあわせてということですか。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

そうです。ただ、それがネガティブに働くのであれば、この置き方というのは少しまた議論の余地があるかなとは思っています。逆にこちらが親切心でむりむりにこういうことを書いても、困惑されてしまうと意味がないと思うので、市民の方にとって逆にマイナスに働くおそれがあるということであれば、次の案といいますか次の形というものをまた皆さんとご議論を交わしたいなと思っています。

(説明者) デザイナー

もう一つ、先ほどの菊竹委員のお話にもあったとおり、すべての場所にこのA案が置かれるべきなのかどうか。20カ所全部の箇所に置かれると、また余り意味のなくなってしまうアイデアでもあります。要所要所でそれがわかることが望ましいので。そういう意味においては、こういう方向を指し示す案になった場合は、何か所ぐらいそれを置いていくべきなのかなという議論がまた発生するだろうと思います。

(岩村部会長)

私は申し上げなかったのですが、個人的には、例えば横浜球場の周辺はB案があり得て、それ以外はA案というのは考え方としてはあるかなと。例えばそういう形は可能ですか。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

可能だと思います。

(岩村部会長)

そうすると、要するにベイスターズのロゴマークが至るところにあるということにはならなくて、むしろ球場の周りであればそれは許容されるだろうと思います。

(説明者) デザイナー

確かに。

(岩村部会長)

そうではないところはもうちょっとシンプルに、明示的にこれを書く。方向性を示すかどうかというのは、個人的には書かないのですが。松野さん、いかがですか。

(松野委員)

僕も2タイプあるのはベターだと思います。それと、ちょっとこの前から気になっているのですが、2年ぐらい前でしたか、I ☆、LOVE。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

2014年からです。

(松野委員)

前から、タイポグラフィからいって☆でLOVEっていうのはすごい気になってきてたわけです。

(岩村部会長)

読めないですよ。まずは読めない。

(松野委員)

この無理さ加減が、開港博のときにブルーのダルメシアンをいやしに使ってというあの無理さと同じようなものがここにあります。いまいちすこっと抜けないのです。ずっとそれは宿題になっていて、どういうふう考えたらいいか。そうしたら、この☆でLOVEと称するところで、YOKOHAMAの間に星が来ていますが、これはタイポグラフィの形からいっても「&」ではないかと思うわけです。I&YOKOHAMA と思って。そうするとすごく抜けてる、意味がすっきりするのです。I&YOKOHAMA で、いかにおれは横浜を愛してるかという。そういうように切りかえたほうがいいのではと。ただニューヨークもやった、宮崎でもどこでもみんなLOVEですよ。であれば、横浜っぽく「&」ぐらいにすれば格好いいのではと思って。それでここに、Iの下に☆が来てYOKOHAMAと、上に星のマークが来ると、何かすごく意味づけでこれはいいなと思いますが。

(岩村部会長)

私もやはり、ハートでI♥YOKOHAMAというのは見飽きていて、もう見るのも嫌だというぐらいの感じがします。そうではなくて、あえて星を選んだということは非常にスマートだと思うのですが、ただしこれはLOVEとは決して読めない。

(松野委員)

この形であれば「&」ですよ。I&YOKOHAMAですよ。

(岩村部会長)

私と横浜、すごくいいですね。そういうふうにもロゴを変えてしまうのはいかがでしょう。

(説明者) デザイナー

確かに、LOVE とはどこにも銘打っていないですよ。僕もそのプロジェクトに最初からかかわっているわけではない案件なのですが、確かにおっしゃった意見はごもっともだなというふうに思いました。

(説明者) 横浜DeNAベイスターズ

前提のところから崩れてしまうかもしれませんが。

(岩村部会長)

事務局に伺いたいのですが、意見の中でベイスターズのロゴマークが入ってくることに若干引けるところがあるような書き方だったと思うのですが、仮に球場の周りをこういう形でして、それ以外を例えばA案でやるということであれば、その辺は大丈夫ですか。

(事務局)

球場の周り、直近ということになるとと思いますが、その辺は横浜公園という都市公園になるので、また別の法令の確認が必要です。

(岩村部会長)

いずれにしても2種類でつくってみて、配置に関しては問題のあるところはそれなりに整理をして、余りいっぱいあるのは何ですから、A案・B案二つだけでいいと思います。あとは適材適所で場所を選ぶということはいかがでしょう。

(事務局)

場所によってその性格づけがおのずと違うところもあると思いますので、そこは個別の場所を見ながら調整することは可能だと思います。

(菊竹委員)

それから、材料も全部これでいくのか、場所によってはやはり鋳鉄という選択肢も残しておいていただきたいと思うのがまず1点です。それから、A案になった場合に、「横浜スタジアム」の下の英文の文字が読めないと思います。私、きょうは1つ例を持ってきたのですが、これはニューヨークのマンホールで方向を示したこういう例なのですが、これぐらいだときちんとわかると思います。なので、「I ☆ YOKOHAMA」と星との関連性、それから本当にちょっと失礼なことを申し上げるかもしれませんが、この方向を示すときには、果たしてベイスターズ様のこのロゴが本当に要るのかどうかというご検討、それから方向指示に対する文字が適切にきちんと読めるようにということをお願いをしたいと思います。

逆に今度、B案のほうは、私のイメージとしては球場の周辺にある、まだことしの4月以降のことになりますが、むしろこちらはベイスターズのマークがもう少し大きく、たとえ大きくなったとしてもいいのではないかと。ここも、本当に方向指示がここは必要なのかということを含めた2案を、お時間をかけさせてしまって恐縮なのですが、もう少しその場にふさわしいような形で整地して、目的を絞り込んだ形でデザインをご検討いただければありがたいと思います。

もう一つ、最後の3つ目なのですが、やはり今後のことを考えるときに、非常に慎重になるべきだろうと。そうすると本当に景観推進地区とそうではない場所が今回の地区になっているにもかかわらず、それをきちんと分けて考えなくていいのかということ、やはりここでもう一度検討しておくべきだというふうに思います。

(岩村部会長)

幾つかポイントがありました。まず最初のほうの話を私なりに理解すると、例えばB案で見たときに、真ん中にロゴとして「DeNA BAYSTARS」で出てきますよね。それでさらに上のほうに「DeNA」、「BAYSTARS」と書いてありますが、これは二重になっていますから、僕は余計だと思います。これをシンプルにするには、今、菊竹委員がおっしゃったように、真ん中のロゴをもう少し大きくしても構わないということであれば、余計その「DeNA」、「BAYSTARS」というものは要らないのではという気がします。

そのあと、きょうはご意見を整理したいのですが、方向を表示することはどうなのかということ、それを後ほど議論したいなと思っていました。

それからもう一つは、これは事務局のほうの考え方なのですが、特別に指定された地域とそうではないところというのを全く同じやり方で考えていいのかどうかという問題です。それは景観行政の話だろうと思いますが、先にそれをちょっとお答え願いたいのですが、どうなのでしょう。

(事務局)

景観計画で関内地区は景観推進地区という地区で、民間の建物についても通常より細かい基準を設けてやっています。そういうことからいって、通常よりもより景観について配慮が必要であると思っています。その中でも今回設置を考えている地区の一部が景観重要公共施設という位置づけがあって、占用基準についても特別な上乘せの基準があったりしますので、そういうことも踏まえた対応が必要というふうに思っております。

(岩村部会長)

恐らく菊竹委員がおっしゃりたいのは、今後こういう案件が出てきたときに、そういう線引きをしてあるところをどういうふうに扱うかということの前例になってしまうであろうということだと思います。ということであれば、今回の前例がその後も適用される可能性が非常に強いとすれば、今どういうふうに考えればいいのかということだと思います。

(事務局)

そこはやはり地域で、今回で言えばベイスターズのような地域ぐるみで、地域と一体となってそのまちづくりで取り組んでいくようなことであるのか、そういうことであれば検討するに値するものかどうかというふうには思いますけれども。

(岩村部会長)

私個人的には、たとえばマリナーズもそうですが、ベイスターズさんも若干ほかの企業さんとは、ある意味でかなり公共性が強く、それから横浜にインテグレートされている度合いも非常に強いという意味で、多少立場が違ふと思います。例えば問題になりましたが、東急インのような企業がマンホールをそうしたいと言ったときは随分違ふと思います。ですから、その辺は考える必要があると思いますが、松野さん、今の点はいかがですか。

(松野委員)

もし、色ということで引かかる要素が出てくるとすれば、逆にこの真ん中のものが、色が使えるものはこの色を使いながら、使えないところにはむしろ鋳鉄の色でこれをやるとか、もう一種類色をつくる。

(岩村部会長)

なるほど。つまり鋳鉄は高くできないから、鋳鉄の色で表現した場合があってもいいのではないかとということですね。

(松野委員)

言ってみれば、これのモノクロ版みたいなものがあってもいいのかなと。

(岩村部会長)

そういうことはお考えになりましたか。

(説明者) デザイナー

一度試してはいるかなと思います。例えば全部ではなくて一部を鋳鉄でやり得るということが、ベイスターズさんの予算的にやり得ることなのかどうか、実はまだ検討していないという状況もあります。すべて鋳鉄なのか、すべてこのグラフィックなのかということ。

(岩村部会長)

いや、ですから今のお話は、色だけ鋳鉄色にできないだろうか。

(説明者) デザイナー

それはすぐにでも検討の余地があることなので、それは全く問題なくできると思います。

(岩村部会長)

つまり、そういうような鋳鉄色のものは、規則が決まっているようなエリアに適用して、そうではないところは色を使うとか。

(松野委員)

そのほうがいい。

(説明者) 横浜DENAベイスターズ

1つの前提としては、今回のこういう取り組みというのが、もちろんマリノスさんの例にもあるように、マンホールに少し色をつけてまちづくりというところで何かできないかという話でのスタートでしたので、色を通常の色ないしは鋳鉄の色からやってみてデザインだけを変えてみるという方向性は、入っていないというのが1つの事実なのです。もちろんうちの費用的なものも含めて、そういうものに対して費用が発生するのをよしとするかどうかということでは社内的にはなかなか厳しいというのが、これまでの話での1つの議論ではあるというのは事実です。

(松野委員)

色だけ変えるのであれば、そんなに費用はかからないですよ。

(説明者) 横浜D○NAベイスターズ

そうです。もちろんこの色を鋳鉄の色に変えるというイメージになるので、単純にそのデザインだけをやるという部分に関して、決して費用が莫大に、2倍、3倍にふえるかということではないのですが。

(関係者) 横浜D○NAベイスターズ

今のお話は、景観保護地区のその部分だけその色を黒くしてしまえばそこが守れるのではないかというお話ですよ。

(岩村部会長)

そういうことですね。

(菊竹委員)

ただし、やはりちょっとベイスターズ様にご検討いただきたいのは、これを見ていただくとわかるように、鋳鉄を使うということは時間がたてばたつほど景観にマッチして財産になっていくということだと思います。この色味を使ったマンホールは、残念ながら時間がたていけばたつほどやはり価値がなくなっていきます。だから、これをもう少し最初にお金がかかっても、一番大切なところにつくって置くということは、絶対にベイスターズ様にとって、横浜市にとっての財産になっていくというような考えをしていただくと、本当にある部分で全部をやるというわけではないのですが、特にこの推進地区の中でも、さらに幾つか非常に重点地区があるというような話を聞きましたが、そういう幾つかについてはそういう考え方もあると。例えば日本大通りなどに行ったときに、こういうふうにやってくれるのであれば私たちもこう考えよう、というようなことにつながっていくことになるのではないかなと思いました。

(松野委員)

それは1個でもいいのです。本物で1個つくって。それは歴史でずっと続くわけです。

(関係者) 横浜D○NAベイスターズ

今のメッセージは本当に非常にありがたいので、前向きに検討します。まさにおっしゃっていただいたようなそういうものが1個あるだけで、ベイスターズがそういう思いでやっているのだという示しになるのであれば、そういうものはまた別の観点で価値があることだと思うので。

(岩村部会長)

それは多分遠い将来に残るのだらうと思います。そういう名前の球団があったんだということが。

(松野委員)

すごくいいなあ。

(説明者) デザイナー

それはデザイナーとしても大変うれしいご提案で、ありがたい限りです。

(菊竹委員)

もう一つ済みません。そのときにご注意いただきたいのは、鋳鉄でやった場合滑りますので、できるだけ平滑な面を少なくするという配慮をぜひしていただきたいので、これと同じものが鋳鉄になったからいいといいますと滑りますので、そこはくれぐれもご留意ください。

(説明者) デザイナー

ありがとうございます。先ほどのご意見に伴ってなのですが、これからデザイン案を、このA案・B案をベースにして少し再検討していきますが、その際にこういうふうと考えていますということをお伝えしておきたいのですが。まずB案に関してですが、これはバリエーションを出すために南北をこういうふうに書いているという状況がありますが、もしA案と並行で使っていくという前提であれば、このA案に周囲にロープ状の装飾がありますがそこは共通化した上で、それでこの周りの南北はなくして、このA案と同じサイズで星を配するとマンホール同士のつながりがきちんとできてくるので、ベイスターズの球場の周りにはロゴがしっかり入っているものが敷かれるけれども、でもそれは街にあるマンホールとつながりがあるのだという状況になると望ましいのかなと考えていました。あと、もう一つはA案で、これもまた先ほどのA案のコントラストが強過ぎるかもしれないというときに、こういうものを以前検討していたというラフの図が出てきましたので、一応軽く回しますので、またこれをご意見をいただきたいところかなと思います。

(岩村部会長)

多少グレーなのですか。

(説明者) デザイナー

線になっています。

(岩村部会長)

こういうのもありですね。そうすると、例えばB案の場合にオリエンテーションをなくすということになりますか。

(説明者) デザイナー

そうです。

(岩村部会長)

そのほうが賛成だと思います。入れかえるのは大変ですから。それから、その場合は重複している「DeNA」、「BAYSTARS」はとっていただきたいです。

(岩村部会長)

それから、施設の方向を示す矢印、これはどうしますか。私は要らないと思いますが。

(菊竹委員)

要らないと思います。

(説明者) デザイナー

逆にB案の南北ではなくて、この縄に込めるような形で、なるべく極小化した南北を入れていくということについてはどう思われますか。B案みたいに際立った南北をつけていくのではなくて。

(岩村部会長)

これ、ねじがありますよね。方向としては、ねじが東西南北にありますよね。それと何か連動するとかしないとかというのはあり得るかもしれないですね。

(松野委員)

1個のねじだけ赤くするとか。

(岩村部会長)

それは格好いいかもしれないですね。

さて、それでは整理をしますと、これはなかなか整理は大変なのですが、基本的にはA案・B案でいきましょう。どちらかだけでやるのではなくて、適材適所でAとBをすみ分けると。どちらかと言えば球場周辺はBだということですね。それから、特殊なエリアに関して言うと、一つだけでも铸铁のものをつくれたらいいなど。それはお金の問題がありますから、それはご検討いただけるということとして、铸铁の場合には滑らないように。僕もこの前滑ってしまったのですが、特にちょっと雪が降ったりすると危ないですね。

(菊竹委員)

おっしゃるとおりです。

(岩村部会長)

滑らないような配慮もしていただきたいということですね。それでご提案をいただいて、細かいところは先ほどご議論があったとおりでですが、基本的にオリエンテーションをこういうはっきりした形で入れることはしない、それから何かの施設の案内もしないということによろしいでしょうか。

(了承)

(岩村部会長)

事務局はいかがですか。先ほどのご意見、見方と比べて、今のまとめ方というのはいかがでしょう。

(事務局)

この方向性で基本的に結構だと思います。具体的な場所とそのデザインをうまくマッチさせてやっていくということになるかと思いますが。

(岩村部会長)

さっき色味を回していただきましたが、あれはこのプリントしたやつよりも相当濃いですね。

(説明者) デザイナー

そうですね。プリントもなかなか振れてしまうので、先ほどの色味が正しいものだとお考えください。

(岩村部会長)

かなりコントラストははっきりしますね。

(説明者) デザイナー

そうですね、白もオフホワイトしますが。ただ、铸铁に近い方向にはいくので、そんなに。

(岩村部会長)

白も余り目立たない白にしていただけるとありがたいかなと思いますが。

(説明者) デザイナー

わかりました。ホワイトを検討します。

(岩村部会長)

一応そのような形でまとめましたが、何かご意見ございますか。

(説明者) デザイナー

確認ですが、A案に関しては、黒のバージョンと青のバージョンとあるということが前提にあるということですね。

(菊竹委員)

済みません、黒というか、この鋳鉄に合わせた……

(岩村部会長)

鋳鉄の色。

(松野委員)

鋳鉄の色ですね。

(説明者) デザイナー

失礼しました、そうですね。

(岩村部会長)

鋳鉄は、実際はこれよりもうちょっとブラウンですよ。

(松野委員)

そうですね。

(説明者) デザイナー

確かに。

(事務局)

鋳鉄の場合は、やはり時間とともに少しずつ見え方が変わってきますので、中の鋳鉄の色だけずっと同じで残ると、その辺の心配というのはあることはあると思いますが、そもそも素材が違いますので。

(岩村部会長)

それから、事務局に確認したいのは、マンホールは1種類だけなのですか。ここにあるのは汚水のマンホールですよ。それ以外のマンホールはなかったのですか。

(事務局)

今回は下水のマンホールのみです。

(説明者) デザイナー

こういうベーシックなところのデザインも考えたいところですよ。

(岩村部会長)

これは僕は見たことがないので。うちの周りはこのものではなくて、もうちょっと今のニューヨークに近いようなやつです。

(松野委員)

これを考えていくと、上の「YOKOHAMA」も英文字の並びが何かばらばらです。すごい気になります。

(岩村部会長)

取り外してはめ込む、そのときにはどんな方向でも構わないということになるのですね。

このねじですが、本当のねじですか。それともこれはうそのねじですか。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

銀色のところのは本当のものです。

(岩村部会長)

これで押さえるわけですか。その上にプラスチックといいますか透明なフィルムがかかるのですか。

(事務局)

何かの樹脂だと聞いています。

(岩村部会長)

大体ご意見が出尽くしたと思いますが、何か言い忘れたことがあればよろしく願います。どな

たでも結構です。

ありがとうございました。大変建設的なご意見をいただきましてありがとうございました。きょうはこれでよかったですでしょうか。

(事務局)

それで、今いただいた意見をもとに調整いたしますが、その最終的な案につきましては事務局のほうで調整させていただいて、最終案をご確認いただくような形でよろしいでしょうか。

(岩村部会長)

また開く必要はないと思います。

(菊竹委員)

色の確認だけ私はちょっと。やはりメールだとなかなか色の判断が難しいところがありまして。

(説明者) デザイナー

例えば特色カラー指定でご確認いただくということはちょっと難しい感じですか。例えば何番の。恐らく共通のカラーチップを持っているのではないかなと思うのですが。

(菊竹委員)

やはりここでチップで見ても。この環境で見ないとなかなか難しいと。

(事務局)

それは現場でという形ですか。

(菊竹委員)

私はぜひ現場でやらせてください。委員長、ご足労いただいてあれなのですが。ちょっとご無理ですかね。

(岩村部会長)

いつごろになりそうですか。3月に全然いないものですから、2月いっぱいということになりますが。

(事務局)

多分2月の末には制作に入らないと間に合わないというふうに聞いておりますので。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

2月のもう少し前です。中旬ぐらいです。デザインが固まってからものが設置されるまで最短で1カ月というふうに伺っています。タイミングとしてはやはり、今回のプロジェクト自体が開幕の前に設置するというのが1つやはりここは守りたいところなので、そうすると、もう既にぎりぎりのタイミングというところはあるので、デザインのところを少しまた修正した上で、その色の確認というものもスケジュールは少しタイトなのですが進めていけるとうれしいなと思っています。

(岩村部会長)

ということは、今週の末とかそんな感じですか。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

なので、デザイン自体をこれから修正をして。

(説明者) デザイナー

速やかにそれはやります。

(説明者) 横浜D・NAベイスターズ

今週中、来週頭とかに固まれば、それで作業には入ると思うのですが、色の問題に関しては、今決めた色でもう既につくってしまうので、そうするとなかなかそこからの修正というのがちょっと厳しいというのが現実問題あります。

(説明者) デザイナー

校正がとれないですよ。

(岩村部会長)

菊竹先生、いつごろであればいいのですか。

(菊竹委員)

私が来週ちょっと海外出張なものですから、松野委員に一任させていただきまして、本当にお忙しいところ恐縮なのですが、ぜひごらんいただいて。

(岩村部会長)

そうですね、松野委員にお願いをできますか。

(松野委員)

わかりました。

	<p>(事務局) 実際の色は、ものができないとわからないですよ。</p> <p>(説明者) 横浜D&NAベイスターズ そうですね、そこから……</p> <p>(事務局) そのときにはもう修正できないわけですよ。</p> <p>(説明者) デザイナー どうしたものかですよ。なるべく近い色をうちのプロッター、カラープリンター的なもので刷って置いてみるということはできるかと思います。そういう原寸で出せるのでそれをやるかどうかですね。</p> <p>(松野委員) マットとか裏使いとか少し紙を変えてみたりして、いろいろやってみたらどうですかね。</p> <p>(説明者) デザイナー そうですね。それで大体このあたりだねという当たりをつけて、それで最終的なチェックとともにここに投げて、あとは結局ここを信頼するしかないというところではあるのですよね、色の問題は。しかも印刷物といっても、結構印刷屋さんではない感じなので、色校という感覚ではないと思います。そこはどうかというところですが。</p> <p>(岩村部会長) 若干気になるのが、ブルーというのはいずれにしても紫外線で飛びますよね。色の質にもよって違ってきますけれども、基本的にブルーは飛びます。要するにあせてくる。それはできるだけあせない色にしていたらありがたいなと思います。</p> <p>(説明者) デザイナー ある程度濃い色ということになると思うのですが。</p> <p>(岩村部会長) 光がまともに照りますから。赤ならまだいいのですが、青の場合は難しいですね。ちょっとその辺は松野委員と調整をしていただいて、儀式みたいなものになってしまうかもしれませんが。いつごろになりそうですか。</p> <p>(説明者) デザイナー デザインの修正は、今日、明日にでも終わり、そしてそれを共有させていただいて、その上で、その色の確認をどうしましょうかという話がありますよね。ここで決めてしまうという手もあると思いますが。</p> <p>(岩村部会長) あとは松野委員にお任せをします。</p> <p>(松野委員) はい、わかりました。</p> <p>(岩村部会長) あとは事務局、よろしいですか。何かお話があれば。</p> <p>(事務局) 特にございませぬ。</p> <p>(岩村部会長) それでは、きょうの部会を終了いたします。ありがとうございました。</p>
資料	・第1回横浜市屋外広告物審議会デザイン審査部会資料
特記事項	